

心の鏡

東京都

葛飾東部剣友会

中学1年 馬場光里

みなさんは「自分らしい剣道」について考えたことがありますか。自分の長所はどこか、どんな剣道をすれば自分は楽しいと感じるのか、中学生になった私は自分自身のことがよく分からず思い悩むことが増えてしまいました。小学生の時は、自分のできる技が少しずつ増えていき、基本のみならず応用技もできるようになって、剣道は楽しいものだただ漠然と感じていたと思います。「長所であるスピードを活かすと良くなる」と先生が指導してくださって、素早く打てたり速い足さばきができたりすると楽しいと感じ、ただ何となく剣道の稽古を続けていました。自分の剣道とはいったい何なのか、深く考えたことはありませんでした。

私の弟が剣道の体験へ行ったのをきっかけに、私も一緒に小学二年生の時に剣道を始め、今年で六年目になります。そして中学一年生になった今、私は中学校の剣道部に所属し、剣友会の稽古とは違った雰囲気の中、いつも新しい刺激をもらいながら剣道を続けています。先生の指導、稽古内容、先輩や同級生との関係、どれをとっても私には新鮮で、剣友会も部活もどちらも続けていきたいと意気込んでいました。しかし、私の心の高揚は長く続かず、ある時から不安な気持ちに駆られるようになりました。

小学六年生の後半は、勉強のため剣道を全くやっておらず、小学校を卒業して剣友会へ復帰すると同時に、中学の剣道部での活動もスタートしました。これまで自分がやってきた戦い方がほぼリセットされてしまった上に、それぞれの環境で先生方の指導方法も異なるので、私は「何が正しいのだろう、自分はどうすればいいのだろう」と戸惑いを感じ「自分らしい剣道」が分からなくなった時期があります。小学生の頃のような剣道の楽しさを感じず、不安定な気持ちが試合にも表れるようになり、私は試合開始直後に後ろへ一歩下がるようになりました。小学生の弟からすれば、そんな簡単なことと笑われてしまうような些細なことだと思います。周りから見たらほんの小さな悩み事にすぎませんが、私が剣道を続けてきた中で最も大きな壁であり、一步を踏み出す、それだけのことがなかなか出来ませんでした。しかし、先生は前に出るようにと何度も根気強く指導してくださり、先輩にこの悩みを相談したときは、「『はじめ』の掛け声と同時に前に出る」とアドバイスをもらいました。「『はじめ』の合図で足を前に出す」、私はひたすらそのことを身体に覚えこませました。先輩に悩みを打ち明けて受け入れてもらったことで、私の心の中の不安も少しずつ和らいでいき、落ち着いて自分の気持ちと向き合うことができました。また、「前に出る」ということは自分の気持ちを強く前へ押し出すためのスイッチであり、足だけではなく私の心も前に出していたのだと思います。そして、秋の団体戦では先鋒として

積極的に攻め二本勝ちし、チームの勝利に貢献することができました。

このことから、「剣道は自分の心を映し出す鏡である」と考えるようになりました。もし自分の心の中に後ろ向きな気持ちがあれば、剣道でも自分から攻めることはできません。よく先生は「気持ちで負けていると勝てない」と指導してくださいます。剣道は心の鏡、つまり、強く攻めていく剣道を心がければ、自分の心も強くなれるということです。これから私が生きていく人生の中で困難なことにぶつかったときには、今回の経験で学んだ「前にでる」ということを忘れないようにします。これらのことをふまえ、私は剣道を上達させるとともに私自身を高め、人として成長し、人間形成への道を歩んでいきます。